

ことばのお守り

ぼく・わたしの座右の銘(五年)

千葉県野田市立南部小学校教諭

卯月 啓子



1 座右の銘をもとう

子どもたち(平成十四年度五年一組男子18人女子16人)に、心に刻み付けて忘れないことばをもたせたい、と考えました。そういうことばを身につけて自分の戒めになり、励ましにしたり、慰めにしたり、目当てにしたりしてもらいたいと思いました。

「座右の銘」にすることばを考えさせると、「ことばに対する見方が変わってきます。自分の心情に合ったことばが世の中にたくさんあることに気がつきます。」

2 座右の銘ってなあに

子どもたちは、「座右の銘」と聞いては、「今ひとつび

福きたる」。森田君は「臨機応変」。星野君は自分で考えたと言いつつ、「実行勇氣」。岡本君は「努力はつらきらしい」。関根さんは「がんばればいつかできる」。佐藤さんは「苦手克服」。植竹さんは細かいいことをすべ気にするので「細かいことは気にしない」「こたえ言っています」。篠崎さんは「浅い川も深く渡れ」。他の子どもそれぞれに自分に合っていることばばかりでした。

4 「座右の銘」が決まらない子に…30分間

吉村君は「ことわざ辞典から」「良薬は口に苦し」を見つけてきました。「ぼくは、他の人の言いつことを聞かないことがあるんだけど、自分にとっては嫌なことも、『良薬は口に苦し』と聞いて、聞けなかなと思ったり、「とことことです。自分のことを知って反省するためのことばは必ずあるのだから」「座右の銘」に悩むわが子と話しました。小松君は「ぼくはしょつとあこやへ入ってこいませいの、べそしないのがい。」「とて言いの、べそしないの辞典をこっそりに見て探してこきました。」口で財布はしめるが得「とことわざがありました。その意味を読んであげる。」「無駄しかいをするのもあるからかぶりこわい。」「と決まったことにほつとていました。宇佐美君は「しつまいり、両方あるってことだね。」「と聞きました。」

んとかないような顔をしたので、よききにランドセルの脇に下がっているお守り袋を例に説明しました。願いを込めて付けているお守りと同じように、自分を守ったり勇気づけたり戒めたりすることばのお守りを作ろうと言いました。このたとえには、ぴんときたようでした。わたしの座右の銘「失敗は成功のもと」「や、いつでもスタート」を紹介しました。子供たちは興味を示しました。「そつとことばなら、四つももっている。」「と鈴木君は言い、続けて「お母さんもそのことばで励ましてくれるよ。」「と話しました。うなずいている子も何人もいたので、聞いてみると、学級の三分の一の子どもがなんらかの「座右の銘」をもっていました。

中沢君は「寝る子は育つ」。永井さんは「ポジティブ」と言い、「前向き」と付け加えました。わたしは、英語でもいいと話しました。大浦さんは「プラス志向」と言いました。そして、「明るく前向き」と説明しました。

3 ぼく・わたしの「座右の銘」…(45分×2)時間
秋谷さんは「やればできる」。テレビ「マーシャルで出会ったことばで、柔道をやっている自分にぴったり合っていると思ったそうです。遠藤君は「自分を信じる」。大竹さんは「なんでもフアイト」。剣道をやっている松宮君は「好きこそ物の上手なれ」。森下さんは「笑つ門には

5 廊下に展示

廊下側の壁面には、個人ごとにクリアケース(A3判大)を張ってあり、そこに、毛筆で書いた作品を入れました。皆の作品が展示されると、子どもたちの思いが込められた「座右の銘」に圧倒される思いでした。通りがかった他学級の子の一人が、「座右の銘」って何。」「と私に聞いたので、説明をしてあげると、「ふーん、みんなすごいね。なんかかっこいいね。」「と言いました。



なお、「座右の銘」についての実践は、拙著『楽しい国語1 漢字と遊ぶ漢字で学ぶ』東洋館出版社、二〇〇三年、136～144頁)で、この実践のほかにも六年生での実践も紹介しています。あわせてお読みいただければ幸いです。